

因島高校を支援する会

発行 因島高校を支援する会
会長 竹中啓修
事務局: 因島高校PTA
☎08452-4-1281
題字 竹中啓修

「因島高校を支援する会」平成16年度 常任幹事会開く

平成16年7月29日(木)、土生町、日立労働会館にて、「因島高校を支援する会」平成16年度常任幹事会が、松浦幸男広島県議会議員、木村修一因島市収入役(市長の代理)、宮地康福教育長を来賓に迎えて、行われました。

竹中啓修因島高校を支援する会会長の挨拶に続き、木村修一因島市収入役(市長の代理)、松浦幸男広島県議会議員、宮地康福教育長と、ご挨拶をいただき、松林博文因島高校校長が、日頃のご支援に對してお礼を述べました。続いて議事はいりました。

平成15年度事業報告

1. 会報の発行
会報(第14号から第21号)を発行
2. 海外語学研修の実施支援
15年5月 S.A.R.S他 の理由により、実施を春休みに延期決定。
15年9月 第一次募集。(募集枠15名)
15年10月 4名応募。
15年12月 第二次募集
16年1月 12名応募。
3. オーストラリア生徒の受け入れ支援
今年度は未実施。
4. 衛星放送サテライン実施
スーパーサタデー(土曜衛星放送サテラインの実施、支援) 夏休暇、春休暇の衛星放送サテライン実施、支援
5. 学校スポーツ振興
野球部支援
吹奏楽部支援
体操田頭君激励(横断幕作成)
6. 学校開放事業
PTAの天体観測、陶芸、介護教室を支援。
7. 会議
7月、支援する会、会長幹事会開催。(因島労働会館)
8. ホームページ作成・管理
9. 就職内定者テーブルマナー

- 16年1月 対象者および保護者向け説明会実施。
- 16年3月 市役所にて壮行会。市長・議長より激励。
- 16年3月 オーストラリアに10日間の予定で出発。(生徒12名)(引率教諭1名)
- 16年4月 市長に帰国報告。

新年度の事業計画

1. 会報の発行
2. 海外語学研修
3. サテライン衛星放送の支援
4. クラブ活動支援
5. 学校開放事業
6. 会議(支援する会幹事会)
7. ホームページ作成・管理
8. 就職内定者テーブルマナー
9. 講演会支援(15年2月) 先進校、先進地視察
10. 講演会の実施
11. 講演会の実施
12. その他

UFOチャリティコンサートに 土生中学生が太鼓で熱演

8月12日(木)因島市民会館で、UFOチャリティコンサートが、開催されました。コンサートに先立ち、土生中学校生徒21名が、太鼓を打ち鳴らし、会場から、大きな拍手が寄せられました。去る5月2日未明に発生した、土生町新生区の集合住宅の火災において、4,600平方メートルが焼け、42世帯83人の方々が、被災にあわれました。



はっさく

「せとだライブ2004」開く 高校生や専門学校生など60名が演奏
8月13日(金)、瀬戸田町垂水のサンセットビーチにて、「せとだライブ2004」が開催され、因島市、福山市、尾道市、三原市をはじめ、遠く、広島市、岡山市、愛媛県からも、高校生や、専門学校生などのバンド、15グループが、集まりました。昨年までは、因島市大浜町で、同様のライブが、おこなわれていました。

土生中学生の太鼓出場については、「これからの次代を担う若者が、罹災者を激励し、罹災者に希望と夢を持っていただきたい。また、その若者の姿を市民に見ていただき、温かい目で見守っていただきたい。」という発想で、土生中橋忠和PTA会長や、河野貢土生中学校長の尽力により実現したものです。

「GSPOT」バンド
メンバーは、壮亜、TANPON、BUN、FUGの4名。オリジナル曲5曲を演奏し、「結成して7ヶ月です。尾道のライブハウスなどで月2回くらい発表しています。今日、野外で演奏できて気持ちいい。」と、話していました。

信頼回復へ一層の努力を



竹中 啓修

因島高校を支援する会会長 竹中啓修

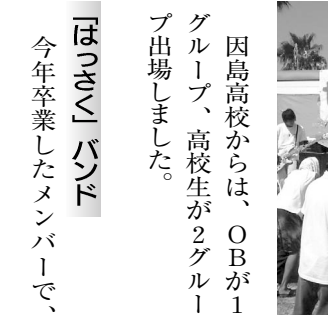
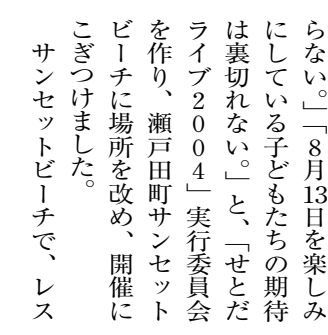
長い歴史やそれぞれ独自の伝統を持つ、因島高校と因島北高校が統合して早くも6年が経過しようとしています。統合当時、学校内外にさまざまな課題を抱え、私たちも一時はどうなることかと心配したものでした。

本校の校長先生も生徒全員明るい挨拶ができる、近隣の高校と比較しても、何ら劣るところはないと明言されています。また学力面でも特別進学クラスを開設して3年目にあたり、学習合宿、校内実力テスト、面接指導などきめ細かな指導を通じ、全体的に着実に

学力向上を進めているということです。来春には国立大学有名私大への多くの進学が期待されています。しかし残念なことに、本年度市内中学校の卒業生の半数以上が、島外の学校に進学するという実態もあり、なんとしても地元のみならず、因島高校をより一層信頼していただける努力をしていかなければならない、と思います。急速に少子化の進む中、この因島に県立高校が生き残るためには、今が一番大切なときと考えています。

「フォークグループ「UFO」は、NHKみんなのうたを通じて、「因島想春譜」のメロディーを、日本全国にひろめ、因島市民のよりどころ、元氣のもととなっており、UFOの歌声を通じて、被災者を勇気付け、お役にたきたいという声があがり、被災地区の高齢者の福祉支援活動のお手伝いをしてきた「NPO法人遊喜の会」(理事長 村田理恵)が中心になり、コンサートの実現に向けて、多くのみなさんの支援の輪が広まり開催に至りました。チケット販売の収益金80万6千円は、罹災者の会(代表 金澤末光さん)に贈呈されました。

「Buffalo-Switch」バンド
メンバーは、深野真照、河野武志、小西裕太、青木慶輔の4名。「ライブに出演しよう」と、同級生が集まって、1ヶ月前に結成した。友達も聞きにきてくれてうれしかった。「すばらしいバンドがたくさんいるので、僕らも早く上手になりたい。」と話していました。



会報の紙面を学校の近況報告に使わせていただき、本校の教育活動の一端をご紹介します。
「進化する因島高校」に対するご理解の一助となり、さらなるご支援をいただければ幸いです。

オーストラリア 語学研修

一年生八名、二年生三名が、十日間のオーストラリア語学研修を終え、八月十日、無事帰国しました。

現地では、ホームステイをしながら、ブレイビー高校に通学し、語学研修とともに、多くの友人をつくり、国際感覚を磨いた楽しく有意義な研修旅行でした。

研修中の様子を因島高校のホームページに掲載していますので、ご覧ください。
研修費の一部を因島市からご支援いただきました。



「さよなら会」で踊る生徒たち

夏期補習授業 「夢」実現のために

夏休みに、夏期補習授業が行われました。一年生は一週間、二年生は二週間と一週間のサテライン講座(衛星放送を利用した予備校の進学補習講座)を、三年生は四週間(夏休み全ての期間)にわたり、補習授業を行いました。

また、空調設備の整った図書室では、補習をおえた

水軍祭り「水早レース」に 三年連続参加

「水軍祭り」に本校からも参加をしています。村上水軍の凱旋の踊り「跳楽舞」には、平成十一年、当時の生徒会役員等の有志により参加を始めました。

また、「水早レース」には、平成十四年度をかわきりに8月29日(日)三年連続の参加をします。

今、クラブ活動は

野球部

七回コールド0対7で強豪崇徳に敗退

甲子園出場にむけて、七月十五日(木)、広島市民球場において、強豪 崇徳高校を相手に一回戦を戦いました。二回に崇徳高校に先制され、以後、小刻みに加点され、七回コールドで敗退しました。

吹奏楽部・生徒応援団や保護者会・野球部OBなど一〇〇名を超える応援を背に、最後の一球まであきらめずに戦い抜きました。

多くのご支援・ご声援ありがとうございました。

囲碁部
岡野涼太君 惜しくも決勝リーグを逃す

広島県予選会(個人戦)で優勝した岡野涼太君(三年)が、七月二十八日(水)から二日間、第二八回全国高校囲碁選手権大会に出場しました。

この大会の予選リーグでは、第1戦、第2戦ともに中押し勝ちで、二勝をあげました。第3戦では有利な展開にもかかわらず、大石の死活を楽観視したため、無念の投了をされました。この結果、予選リーグ二位になり、決勝へは進出できませんでした。

念願の全国大会出場にもかかわらず、十分な成績が残せず残念でしたが、この大会を通じて、戦いの読みや技量などは全国に通用するレベルであることがわかりました。

この大会の後、七月三十一日(土)八月一日(日)の二日間、アマ・プロオープン囲碁棋戦・第五回鳳凰杯に出場しました。

七月三十一日、六四人によるリーグ戦が行われ、第一戦は、アマ強豪の本家さん(東京代

表)と対戦し、互いに残り時間が一分という激戦を、十日以上の大差で勝利しました。

第二戦は、アマ最高峰の多賀さんと対戦し、中盤までリードしていたものの、終盤に追い抜かれて四目半で敗戦しました。第三戦目の李さんとの対戦は、涼太君が定石を間違えたために、早い段階で投了し、中押し負けとなりました。

二敗をしましたが、世界アマ選手権大会四位入賞の実績を持つ本家さんに勝利し、アマ最高峰の多賀さんにも善戦するなど、並のアマではないことを感じさせた大会でした。



サッカー部

〇―3で如水館高校に敗退
尾三地区高校総合体育大会(サッカーの部)決勝戦

尾三地区高校総合体育大会(サッカー)決勝戦が7月25日(日)、如水館高校を対戦相手に、本校グラウンドで行われました。

多くの声援を背に健闘しましたが、前半終了間際に先制ゴールを許し、後半も追加点を奪われ、残念ながら0―3で敗退しました。

サッカー部の躍進に期待がかかります。

応援してくださいました皆さんにお礼を申し上げます

なお、尾三地区選抜チームの選手として、本校から茨木博行君、岡野翔君、箱崎竜也君(いずれも1年生)の3名が選出され、広島県アンダー16選抜選考会(7月29日～30日、三次市)に参加しました。

体操部

田頭剛君 全国大会
過去最高の「4位入賞」

6月19日(土)～20日(日)、中国高校選手権大会(体操競技)で、種目別2種目制覇、個人総合3位の好成績をあげた田頭剛君(2年生)が、全国高校総体(中国04総体)(体操競技の部)(8月1日(日)～2日(月))。広島県立総合体育館(グリーアリーナ)に出場しました。

地元の多くの声援を背に、個人総合(規定演技)8位の好位置で予選通過。決勝の自由演技では、難易度の高い演技を連続し、つり輪4位、跳馬4位、個人総合8位と大健闘しました。本校生徒による全国大会での「4位入賞」は、過去最高の快挙といえます。

応援に駆けつけてくださった皆さんにお礼を申し上げます。



今年度は、非常勤講師の向井アヌ先生の指導を受けています。向井先生は、指導はもとより、音楽を幅広く勉強されており、楽器の知識も豊富で、吹奏楽指導をとっても熱心にして

くださっています。6月の文化祭には、新入部員もよく頑張り、大変自信がついたように思います。先日の吹奏楽コンクールではその自信がながっていったように、各々が精一杯力を出して演奏できたのではないのでしょうか。

オープンスクール開く

来春、因島高校生となったあなたにお会いできるように

八月三日(月)、中学三年生、保護者、中学校教職員等を対象にオープンスクール(学校説明会)を行いました。本年は、オープニングとして、吹奏楽部による演奏、体操部田頭剛君による模範演技などの日頃のクラブ活動の成果の一端を見ていただきました。

学校の現況や学習、進路についての説明の後、希望ごとに高校の授業を体験していただきました。受講していただいた講座によっては、レベル

学校評価アンケート

七月に因島五中学校の三年生の保護者の方に本校に対する評価アンケートをお願いしましたところ、対象とした二二五名のうち77%から回答をいただきました。集計が終わりましので、結果を公表します。

昨年度と同じ項目で肯定的評価をいただいたのは、「因島高校は進学や就職などの進路指導に力を入れている」73.5%(昨年度は57.6%)、「因島高校は、行事やクラブ活

動を積極的に推進している」71.5%(同50.8%)、「因島高校は、子どもを入学させても良い学校である」75.3%(同64.0%)の三点です。これらの項目は、いずれも昨年度比10～20ポイントの上昇を示しています。

本校は、徐々にではありますが、良い評価をいただけるようになってきています。しかし、交通マナーや挨拶・服装等の改善すべき点も多く指摘されています。詳細は、ホームページをご覧ください。



市民の投書箱

日の丸を喜ばない子どもたち

オリンピックで、日本選手が健闘して、日の丸が掲揚されています。しかし、わが子は、「日の丸は、戦争の旗だ。赤は血の色だ。」と言う。小中学校で、そう教えられ、信じ込んでいます。すなおに日本を応援し、国旗の揚がるのを喜ぶことのできない子どもを作ってきた教育に文句を言いたい。いったい、その教員たちは、どんな気持ちで、オリンピックを見ているのでしょうか?

編集後記

▼因島高校から最新ニュースの原稿をいただいた。「進化する因島高校」の一端がうかがえていただければ幸いです。百聞は一見にしかず。文化祭や、体育会に出かけてみてはいかがですか。▼瀬戸田で高校生のライブがあった。「今日は俺たちが主役だ。」と、演奏に熱中する真剣な顔を見つけた。何事でも一生懸命取り組めば、相手に通じる。いい思い出になるでしょう